

PROFILE

中村華子（笙）

Hanako NAKAMURA, Sho

国立音楽大学音楽学学科卒業。笙を宮田まゆみ、多忠輝、楽琵琶を中村かほる、雅楽合奏を芝祐靖の各氏に師事。2001年より伶楽舎メンバー。2006年度文化庁新進芸術家国内研修員。

雅楽演奏団体「伶楽舎」メンバーとして国立劇場をはじめとする国内の劇場やホールでの公演、小中学校公演、海外公演などに参加する他、中村仁美（箏）・中村香奈子（笛）との「雅楽三昧 中村さんち」、三浦礼美・田島和枝との笙トリオ「Shogirls」（2023年より三浦礼美とのデュオ）、若手雅楽奏者とともに結成した「倫遊会」、エミー賞受賞ドラマ「SHOGUN」の音楽を担当した作曲家・石田多朗の雅楽プロジェクト等、多数のユニットやグループで活動している。ソロ奏者としても、高い評価を得ており、作曲家、他の演奏家、他ジャンルの芸術家からの信頼は篤い。雅楽という狭いジャンルに留まらず、今や、日本の現代音楽シーンにおいて、欠かせぬ存在となっている。

2011年、「笙とピアノ・映像の融合」（ピアノ：朝川万里）と題したコンサートでは、気鋭のアーティストたち（糊沢順、中西宣人、エレイン・トマツィ・フレイタス）の創る映像とコラボレーションを行う。2015年4月には初演（2014年）も手掛けた笙とエレクトロニクスのための伊藤美由紀作曲「不滅の光」の中国初演を成都の四川音楽院で行った。同年10月カナダのグラン・バレエ・ド・モンリオールのバレエ公演「輝夜姫」に田淵勝彦（箏）、角田眞美（龍笛）とともに参加。同作品は、巨匠イリ・キリアン振付による現代バレエの傑作で、雅楽楽器（笙・箏・龍笛各1人）と打楽器アンサンブルによる石井眞木の独特の音楽も高い評価を受けている。2017年12月、笙と邦楽器を現代の視点でとらえたコンサート「はなみやび」を自らプロデュース。古典と新作を含む現代作品の工夫をこらしたプログラムで、日本楽器の新しい魅力を引き出した。「はなみやび 2」はアーツカウンシル東京や文化庁の助成を得て2022年1月に開催された。2018年9月、韓国ของ Ensemble TIMF（2001年創設）から招かれ、同アンサンブルと細川俊夫作曲「Landscape V」、藤倉大作曲「Breathing Tides」を共演。2021年2月と2022年10月、薩摩琵琶の久保田晶子とデュオコンサートを開催し、複数の委嘱新作を初演。2023年9月には、森田泰之進作曲笙とオーケストラのための「音・輪II」の世界初演のソリストを務めた（山下一史指揮・愛知室内オーケストラ）。2023年12月に三浦礼美と共に開催したShogirlsコンサートは2024年5月、NHK・FM「現代の音楽」において2週にわたって放送された。中村は、若手アーティストの海外展開をサポートする文化庁のクリエイター支援基金の2024-2026年育成対象者に選ばれており、2026年にはベトナム、インドネシアでの公演に参加する。

沖縄県立芸術大学非常勤講師（2024年4月～）、国立音楽大学音楽文化教育学科音楽情報専修非常勤講師（2026年4月～）。

公式WEBサイト <https://hanakonakamura.b-sheet.jp/>